

病棟で口腔ケアのラウンドを行うようになって十年になります。術後肺炎・誤嚥性肺炎の予防、口腔内の清潔保持、口腔評価、など歯科衛生士の専門的口腔ケアの必要性は年々多様化しています。撮食嚥下の分野でも口腔ケアは「食べ物の入り口」の清掃にとどまらず、機能的口腔ケアとして口腔機能の維持向上につながることがようやく知られるようになつてきました。

撮食嚥下多職種から成る撮食嚥下サポートチームのメンバーとなり、患者さんがより安全にスムーズに食べられるようになりますにはどうしたらよいか考えたとき、口の動きは? 咽頭は? 栄養状態は?

勢が悪かつたり、手指が頭部と協調して動かなければ上手に食べることはできなない。この協調運動は発達の過程で学習したものであるが、健常者にはその意識はない。食材を口に運んだ後、口腔内で味(化学受容器)、噛みごたえ(機械受容器)、満足感には脳の報酬系が大きく関与し、高齢者のQOLを考える際に重要な神経連の摂食過程を通して、多くの器官が協調して機能することで遂行できる。この過程の中で、脳を中心とした神経系が栄養の不足(食欲)、食の質(安全)、摂食材は選択しない。食事の際(満腹)するまでの栄養摂取は、多くの器官が協調することで、完結する複雑な過程が順序よく、一連の過程が順序よ



基調講演 各職種が咀嚼・嚥下・吸収を一連のシステムとして認識することの意義

新潟大学副学長

山田 好秋

摂食行動は生命維持に欠くことのできない行動であるが、安全な栄養摂取は、食の認知から始まり、口腔への取り込み、咀嚼・嚥下、消化、そして吸収までの一連の摂食過程を通して、多くの器官が協調して機能することで遂行できる。この過程の中で、脳を中心とした神経系が栄養の不足(食欲)、食の質(安全)、摂食材は選択しない。食事の際(満腹)するまでの栄養摂取は、多くの器官が協調することで、完結する複雑な過程が順序よ

おそらくダイエットや健康を気にしなければ嫌いな食事は選択しない。食事の際(満腹)するまでの栄養摂取は、多くの器官が協調することで、完結する複雑な過程が順序よ

2010医療・介護連携シンポジウム

「口から食べたい」を支える口腔ケアと嚥下リハ

とき 8月22日(日)

午後1時00分~5時00分(休憩有)

会場 名鉄トヤマホテル 4F

参加対象 医療・介護を担う各職種

参加費 無料

**患者さんの「ああ、うまい」のひと
言が忘れられない**

済生会富山病院・歯科衛生士 坂口 奈美子

病棟で口腔ケアのラウン

ドを行なうようになつて十年になります。

術後肺炎・誤嚥性肺炎の予防、口腔内の清潔保持、

口腔評価、など歯科衛生士の専門的口腔ケアの必要性は年々多様化しています。

撮食嚥下の分野でも口腔ケ

アは「食べ物の入り口」の清掃にとどまらず、機能的

口腔ケアとして口腔機能の維持向上につながることが

ポジショニング、首の角度は? どれだけのことを専門的な視点で見ていかなければならいか? ということを日々実感しています。これ

ほど多職種の連携を必要とする疾患はないのではと思

う程度です。各職種が専門性を發揮し、かつ他職種の理解を深めていく。連携する

ことで相乗効果をもたらす

ではないでしょうか。

私は食べることをあきらめているある患者さんが嚥下回診の時に久しぶりにゼリーを一口食べた時の「ああ、うまい」の一言が忘れられません。多職種の連携

は、訪問診療の対象となると解釈できる。

厚: 変わっていない。「心身障害の状態からみて自力では通院困難と、医師又は

は、訪問診療の対象となると解釈できる。

厚: そのとおりだ。そのよ

うな場合も医師・歯科医師の判断で通院困難となれば

厚: そのとおりだ。そのよ

う程度です。各職種が専門性を發揮し、かつ他職種の理

解を深めていく。連携する

ことで相乗効果をもたらす

ではないでしょうか。

私は食べることをあきらめているある患者さんが嚥下回診の時に久しぶりにゼリーを一口食べた時の「ああ、うまい」の一言が忘れられません。多職種の連携

は、訪問診療の対象となると解釈できる。

厚: 変わっていない。「心身障害の状態からみて自力では通院困難と、医師又は

は、訪問診療の対象となると解釈できる。

厚: そのとおりだ。そのよ

うな場合も医師・歯科医師の判断で通院困難となれば

厚: そのとおりだ。そのよ

うな場合も医師・